

よろず見聞記 2 (20160130)

モンサントの世界戦略 十勝が狙われている

<分類：講演会>

帯広の講演会も札幌の情報交換会と同様、遺伝子組換え技術がテーマで、背景の一つに TPP がありました。主催が、札幌は農林水産省北海道農政事務所（GM 技術を国民に受け入れてもらいたい）だったので、帯広は市民による実行委員会（GM フリーを掲げている）でした。

<概要>

【日時／会場】 2016 年 1 月 30 日（土）14：00～17：00／とがちプラザ 1F 大集会室

【主催者】 「モンサントの世界戦略・十勝が狙われている」実行委員会
事務局 NPO 法人ミックス・フルーツ

【対象者】 一般）帯広管内・全道の農業者中心に一般市民 250 人以上 300 人近く

【場のつくり】 講演①（14：10～15：55、1 時間 45 分）+Q&A（15：55～16：10）
講演②（16：15～16：45、30 分）+Q&A（16：45～17：00）

【講師】 1. 河田昌東さん（遺伝子組換え情報室代表）
2. 中島紀一さん（有機農業技術会議代表）

【主たる内容】

1. GM 大豆の栽培地域（アルゼンチン）で健康被害が増加しているとの情報を受けて、フランスのジャーナリストが取材し作成した BS 世界のドキュメンタリー「遺伝子組換え戦争 “戦略作物”を巡る闘い欧 VS 米」の一部視聴（30 分）。ラウンドアップ耐性の雑草が出現し始めたので、ジカンバや 2 4-d 枯葉剤など複数の除草剤を混ぜて使っている実態など。

上記の映画のようなことが起こっている国には GM 表示制度がない。アメリカでも近年表示制度求める動きが活発になってきている。と、してから講演が始まった。遺伝子組換えに関する技術問題から安全性問題まで多岐にわたった。最後に、GM 作物が初めて消費者の目の前に登場した頃に遡り、その際行われた安全性評価をめぐる報告書（500 ページ）の閲覧及び書写の作業が如何に大変だったか、ということが紹介された。

2. 茨城大学名誉教授の中島さんは、TPP 及びモンサント社の戦略を念頭に置き、十勝で農家はどうか受け止めればいいのかに関する考えを述べた。農業国十勝「フードバレーとがち」構想を攻めの戦略に使うときに、GM フリーが決定的な条件になるとした。

北海道 GM 条例は強力であるが、TPP となったときモンサント社にとっては困る条例なので、ISD 条項の扱い如何によっては一審制の「国際投資紛争解決センター」に訴えられるかもしれないと述べられた。その上で、北海道 GM 条例で道民は守られているとして済まらず、道民は GM 条例を支持するという理論闘争をしていく必要がある、とした。

<個人的感想>

主催者や講演者たちを駆り立てたものは、見聞記 1「遺伝子組換え技術に関する情報交換会」と同様、やはり TPP です。中島さんの話は、演題が「北海道・十勝農業のこれからと遺伝子組み換え (GM)・モンサントの困った問題 ～TPP 大筋合意という情報の下で～」で、講演時間が短縮されたものの、まとまったものでした。「北海道農業は安全・自然・高品質の 3 セットが生命線で、GM フリーには大きな価値がある」という主張は傾聴に値するものの、これは大規模経営が多い十勝地方で、こういった意味を持つことになるのだろうかとも思いました。

また、中島さんは、北海道で遺伝子組換え作物の栽培規制に向けた動きが表面化した頃、茨城県で起きた事件の顛末を語られました。2003 年頃、研究機関ではない一般農家が GM 大豆を試験的に蒔いたとき、開花する直前に鋤き込まれてしまうという事件があり、当初、犯罪として警察が動いたそうです。しかし、結果として、全てなかったことになったそうです。中島さんによれば、そのわけは茨城県が動いたからだそうで、本州最大の農業県なので、一般農家による栽培で開花し実がなったという事態は避けたかったのだそうです。

中島さんの質問に対する応答には、はっとさせられるものがありました。世論調査結果からは大都市では、TPP に賛成する人が多いということ、アベノミクスを良しとする人が多いと述べた後で、理解がない人たちを含めて穏やかに話し合っていく必要があると語られたのです。

私はこれまで GM 作物に関する様々なイベントを経験してきましたが、おおむね反対派の方達は外に向かって場を作るというより、内側で語られる場合が多いような感触を持っています。ここにきて、中島さんが、ディベートは嫌いだが、理解がない人たち (余り考えていない人、異なる考え方の人も含むと推測) と穏やかに話し合っていく必要性に踏み込んだのには、驚きました。参加者に向かって講演者が話し続ける場の作りから、別種のものに転換していきたいとの意思表示にも思えました。そこで、主催者のどなたかが北海道大学 CoSTEP (科学技術コミュニケーター養成ユニット) の受講生となり、農業者と消費者による GM 作物問題での対話の場作りを試みてみるなどしてはどうだろうか、と夢想してしまいました。

河田さんの講演は長引いたのですが、GM 作物問題のほとんど全てを網羅する内容だったので、中島氏の講演の役に立ったと言えるのかもしれませんが。ただ、GM 作物による「被害」として挙げられた事例には、科学者たちによって批判された事例も挙げられていましたので、そこは議論の余地があるかもしれません (批判に対する考察も含めて)。なお、河田さんは話し終える直前に、某国際学会の講演で聞いたという、ある哲学者の言葉を紹介されました。「新しい科学技術を社会に下ろす時の課題は、nature と culture と future の 3 つのバランスをとることだ」、というものです。このバランス感覚は大切だと思いました。

文責 吉田省子

【言葉】

- ・ラウンドアップ耐性の雑草 = モンサント社の主力除草剤ラウンドアップの主成分グリホサートに耐性を持つ雑草。
- ・北海道 GM 条例 = 遺伝子組換え作物の栽培等による交雑等の防止に関する条例。2005 年 3 月公

布、2006年1月施行。研究機関による試験栽培は届出制で農家の一般栽培は許可制。説明会の開催と周辺住民の理解を得ることが求められ、罰則規定がついている。なお、GM作物を栽培する際の交雑防止のための隔離距離は、国の研究機関が従う指針よりも厳しい。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/shs/05/anzen/gmjyourei-gaiyou-26.3.28.pdf>

• CoSTEP = <http://costep.hucc.hokudai.ac.jp/costep/>

• GM表示制度

	EU	日本	アメリカ
表示の対象範囲	全ての食品	農産物 8 品目 (大豆、ばれいしょ、てん菜、なたね、とうもろこし、綿実、アルファルファ、パパイヤ) 加工食品 33 品目	<ul style="list-style-type: none"> ・表示義務は定められていない。 ・高オレイン酸含有の大豆など従来のものと著しく組成や栄養に変化がある場合には、その成分を表示する。
DNA やタンパク質が 残存していないもの	残存していなくても表示義務がある	表示義務はない	
飼料	表示義務がある	表示義務はない	
意図しない混入	0.9%未満	5%以下	<ul style="list-style-type: none"> ・近年表示を求める運動